

そのために、居場所活動での新たなつながりや、子供対象の塾や食堂などの企画を通して若い親層へのアピールもすすめます。

6. コロナ禍だからこそ、屋外でできるウォーキングや遠足などの様々な交流企画づくりをすすめます。
7. 加入申込書の裏面にあるアンケート用紙の活用をすすめ、関心のある取り組み情報などから、お世話がかりにつなげる取り組みをすすめます。
8. 1支部1助け合い運動として、「居場所活動」や「ボランティア活動」をはじめ、支部での「相談会」や年金者組合の「お助け隊サポーター」などへの協力を含め、運動の継続と強化に取り組みます。

II 健康づくり

9. 「組合員健診」のわかりやすさ追求と宣伝強化に取り組みます。
10. 健康チェックセットの機器（骨密度や足指力計など）購入、専用カーの導入を検討します。
11. フレイル予防講座の充実を目指します。
12. 認知症予防活動の充実（脳いきいきクラブ交流会、サポーター養成講座など）に取り組みます。

III 組織づくりと職員との協力

13. 支部活動の活性化のために、1,000世帯を超える支部の支部分割の検討をはじめます。その為のプロジェクト発足を行います。また、支部での三役（支部長、副支部長など）を確立し、各専門委員会への選出を各支部が行うなど、分担して活動が進められる体制を作ります。
14. 活動のあり方改革→支部活動や班会は運営委員が主に！事務局はサポート係へ。自主的に活動できる体制づくりをすすめます。
15. 仲間づくりを拡げるために広報宣伝の方法の改善（健康ニュースの紙面形態や活動紹介などを充実など）に取り組み、そのための通信員制度の確立を検討します。
16. 組合員の実質的な減少への対応として、プロジェクト中心に組合員名簿の整備や規約改定の論議を進めると同時に、転居先不明の組合員掘起こし作戦を進めます。また組合員名簿システムの改善をめざします。
17. 組合員のみならず職員への活動紹介学習の強化や共同組織との交流の場を増やします。
18. 病院リニューアルでの要望を出しながら共和会の医療介護事業を支え、共和会の経営を支える大

きな運動のなかで増資活動に取り組みます。

IV 社保平和、まちづくり運動

19. まちづくりの視点で、地域住民の要求や相談を聞く活動をはじめ、防災対策にも行政とともに取り組み、自治体への働きかけを行います。また、要求毎の運動だけでなく互助組合が民主団体や「あんしんすこやかセンター」、自治会などと運動をつなぐ役割を果たしていきます。そのため、互助組合がかかわる諸団体との連携状況を「みえる化」します。
20. 地域医療計画による病院統廃合（済生会兵庫県病院と三田市民病院、六甲病院など）や保健所統廃合（芦屋）など、医療や社会保障を守り発展させるたたかいをすすめます。
21. コロナ禍で健康権や生存権の大切さと貧困問題など課題が明確になりました。HPH活動等を通して地域と幅広く連携した学習や改善運動に取り組みます。
22. 環境問題については、新型コロナウイルスの発生要因に地球温暖化が関係すると言われていいます。その温暖化の要因となる、神鋼火力発電所建設問題やNO₂カプセル調査など環境改善運動に取り組みます。また、建築物等の取り壊しに生じるアスベスト問題にも取り組みます。
23. 介護保険の保険料負担増や75歳以上窓口2割化などを許さず社会保障の充実を目指し、核兵器廃絶や原発ゼロなど平和な社会を求め総選挙で願いを実現させます。また、地域の様々な要求を実現するため、県知事選挙・神戸市長選挙にむけて地元選出議員との懇談などを検討します。

V 多彩で楽しいとりくみ

24. 11月7日に開催予定の「健康まつり」を成功させます。
25. 「第15回全国共同組織交流会（山梨）」は2022年に再延期されましたが、2021年9月に開催される、共同組織オンラインミニ集会に参加します。

基本課題 (目標)

■仲間ふやし	850件
■出資金	10,000件
	増資1億円（純増5,000万円）
■いつでも元気	50部増
■世話人づくり（お世話がかり）	
	組合員50人に対して1人（配達協力者含め400人）
■転居先不明除く組合員	20,000世帯へ回復

東神戸医療互助組合

2021年度総代会方針(案)

スローガン

新型コロナに負けず、新たな工夫で「安心して住み続けられるまちづくり」の実践を！

はじめに

2020年度の支部総会、総代会は「新型コロナ禍」の中、感染予防に努めながら代議員の定数削減、運営や進行などを短縮して開催し、無事に終わることができました。

一昨年から始まった新型コロナ感染症でしたが、私たちの仲間である兵庫民医連の事業所でもクラスターが発生。全国の民医連の援助を受けながら、懸命に奮闘した職員や、その家族、地域の組合員さんに改めて敬意を表したいと思います。

「コロナ禍の中、組合員の声を聞き、新しい輪を広げ、笑顔を取り戻そう」「地域の宝である共和会の事業所の経営を、私たちの活動と出資金で守ろう」の2つのスローガンを掲げ、さらに、「コロナ禍に負けず、地域に踏み出し、出資金・仲間を増やそう」と心を合わせ取り組んできました。いろいろ

工夫をこらした行事や集いが企画され、生き生きとした活動が展開されました。

出資金での協力をはじめ、手作りガウンづくりやお手紙、タペストリーなど物資両面で理事会からの呼びかけに応じて頂いた組合員、運営委員、世話人のみなさんに感謝申し上げます。

まだまだ、「コロナ禍」の収束が見えない中、今こそ互助組合らしく「人の温かさ」を感じられ、人とつながる取り組みが強く求められています。

さて、情勢では昨年9月に誕生した菅内閣は、所信表明で「自助」「自己責任」を打ち出しました。「憲法9条・25条」をしっかりと守り、拡充させるためには、政治を変えなければなりません。政治への不満は生活と結びついており、より分かりやすくなっています。今年は選挙の年です。市民と野党の共闘の力で勝利しましょう。

最後に、第45期総代会の任務は①2020年度のまとめと2021年度の方針の決定。②決算・予算の確認。③方針を先頭に立って実践する新役員の選出です。

以上、以下に2020年度のまとめと2021年度方針案を提案します。

2020年度のまとめ

1. 基本課題の到達

- 加入 到達 345件
- ▶コロナ禍で活動が制限される中でも、班会や居場所などの行事、知人や家族などへの訴えを行いま

第45期総代会のご案内

とき

6月6日（日）

午前9時30分開場 10時00分開会

ばしよ

神戸市教育会館 大ホール

- JR・阪神「元町」駅（東口）から北へ徒歩10分。
- 地下鉄の「県庁前」駅からは徒歩5分

コロナ禍のもとでの開催となるので参加対象を制限しています。各支部総会で選出された総代のうち、参加を指定された方のみ、ご参加ください。

したが、残念ながら目標に対して41%（前年比94%）と伸び悩みました。あらためて、病院コミセンや居場所活動が加入促進において重要である位置づけが再認識されました。

- ▶病院外来では医師による医局アピールの訴えで加入が一定数あったり、事業所での健康診断やインフルエンザ予防接種の助成で加入（46件）がありました。

■出資金

到達 増資額 1億3,145万円（件数4,224件）
純増額 7,015万円

- ▶金額では年間目標1億円を突破し、直近10年で最高額を達成。純増でも目標の5,000万円を超過。特に11月単月で増資額2,500万円は過去10年間で最高。また、金額だけでなく件数も奮闘し、年間では前年比微減ながらも、月間では3ヶ月すべてで400件を超えた点は大きく評価できます。
- ▶秋の組織強化月間においても、コロナで経営が厳しくなった共和会を支えようと、振込用紙を作成し「緊急増資アピール」を出し、振込だけで140件240万円を超える増資がありました。激励コメントも多く記載されており、共和会への信頼の大きさを実感しました。

■いつでも元気

- 到達 36冊
- ▶今年は初めて全取扱所の購読者リストを作成。職員名簿でも未購読者も明確にし、意識的に普及の呼びかけを行い、訪問看護ステーション「こすもす」では、一気に8部増の経験や、住吉北、住吉南、灘西、灘東、葺合南、兵庫、北、の各支部でも購読者が増えました。最終的に3月までの取り組みで400冊を達成しました（増誌反映は5月号）。

2. 「安心して住み続けられるまちづくり」を発展させるために

- ▶新型コロナウイルス感染防止に注意をしながら「まちづくり」をすすめるという、かつてない取り組みが求められた1年となりました。人とのふれあいが制限される状況で、訪問行動などが計画できず、結果として組合員名簿や居場所のマップづくりには至りませんでした。
- ▶各支部で「組合員訪問行動」を計画し、コロナ禍の自粛における影響や困りごとなどの聞き取りや相談会を提起しましたが、感染拡大の影響もあり

大々的な訪問行動としては実施できませんでした。が、「御影」「兵庫」が青空健康チェックにかわって、青空相談会を実施しました。

- ▶5～6月には自粛期間中の組合員さんへの電話かけを職員と行い、自粛によるストレスを抱えた実態が浮き彫りとなりました。そんな中、班会の参加者たちへ、脳いきのクイズや体操の仕方などの資料を配布され、大変喜ばれました。また、6月には認知症予防ネットワークの要請に応え、自粛におけるアンケートに参加し200件以上の参加がありました。
- ▶貧困対策については、「SDGs（国連が提唱する持続可能な17個の目標）」や「SDH（健康の社会的決定要因）」の学習を支部運営委員会の中で開催する支部もありました。
- ▶環境問題では、NO₂カプセル調査について協力しました。六アイ支部では、支部独自でエコクラブに加入するなど、支部や地域で環境改善運動に力を入れるところも増えてきました。

3. 魅力あるとりくみで「共同組織をさらに大きく」発展させるために

- ▶今年は新しい班会が3支部で結成されました。ほくら（深江新婦人）、住吉南（東灘民商）、北（体操）の3支部です。医療懇談会の開催は合同を含め、ほくら、住吉北、灘西、灘東、北の5支部に留まりましたが、参加者の加入があるなど成果がみられました。内容的にも、神戸市出前トーク「認知症神戸モデル」の活用や、外部講師による「脳トレと体操」、職員を講師に新型コロナや介護保険の学習が好評でした。また、ボランティア委員会主催の「老活セミナー」は22人参加で好評でした。
- ▶「健康チェック」については、感染防止の為、健康チェック自体を自粛したため、健康チェックグッズの購入や健康チェックカー導入の議論は行えませんでした。
- ▶病院では民商健診を11月と12月の2回開催し、健診受診のきっかけが作れたと同時に加入が増えるなど成果もありました。診療所でも東診などは企業健診をとおして加入が大きく増えるなど成果がありました。
- ▶インフルエンザ予防接種の助成（2,000円）については、今年はコロナ禍で希望者が殺到する事を避け、前半と後半の新規受付を制限しましたが助成数は503件と前年より増。それに伴う新規加入者は前年より46件と減少しましたが、前年に加入

されたリピーターが多いとの事で、組合加入のメリットとして活用されています。

- ▶ヘルスアップチャレンジは177人が登録し、前年147人を超えました。
- ▶居場所活動ではコロナ禍で居場所での喫茶や食事会の制限をしていましたが、10月より再開となった事で多くの参加者が居場所に集い、顔が見え対話できる事への喜びを感じられたとの声が届きましたが、1月より再度、感染拡大により飲食については自粛せざるをえませんでした。北支部では7つ目の居場所「サロンすずらん」が開所。初の医療懇談会や喫茶には多くの参加者があり、開設に伴う出資や加入も大きく拡がりました。
- ▶健康ニュースの配達協力者について、うはら、住吉南、御影、六アイ、灘東、兵庫、北、北神の各支部で新たな配達協力者を増やすことが出来ました。一方で、1人の配達数の過重負担の軽減が必要な事例も多く、さらなる協力者の呼びかけが求められます。
- ▶コロナ禍で屋外での企画が増え大好評でした。「うはら：グラウンドゴルフ」「御影：みんなで遠足」「北神：紅葉狩り」など屋内から外に出て体を動かす企画が増えたのも特徴です。また、保健委員会主催「秋のウォーキング」も20人参加で予約一杯と好評でした。
- ▶コロナ感染拡大により「第15回全国共同組織交流会（山梨）」が延期となりました。

4. 「職員との協力共同」を深化させるために

- ▶教育学習委員会を中心に、新入職員対象のオリエンテーションで互助組合の説明を行い、新入職員が多く加入しました。
- ▶コロナ自粛で疲れが出る中、月間の目玉として11月14日に東灘区うはらホールで行われた「ごぼう先生と笑顔で体操」企画は、163人の参加で大成功をおさめました。企画後に支部で体操DVDを活用した取り組みもありました。一般参加者も多く、当日に「いつでも元気」申し込みや後日加入を含める相当数の方が今回の企画を通して加入され、要求と企画が合致し、参加者に元気を与えられた企画となりました。
- ▶認知症予防についての取り組みは、脳いきいき班会の実施にとどまりました。
- ▶健診について安心感やお得感の伝わる広報宣伝物の作成を計画していましたが、作成を含めて実現には至りませんでした。

5. 「平和と憲法と人権」をまもるために

- ▶署名では「改憲No！署名」「ヒバクシャ国際署名」に取り組み、憲法の大切さ平和の大切さを訴えました。社会保障分野では「いのち署名」「75歳以上2割化阻止」など、コロナ禍で露呈された医療介護をはじめ社会保障制度の充実や、全世代型社会保障改革阻止のための署名に取り組みました。
- ▶社保平和委員会ではJR住吉駅前で毎月署名行動を実施しました。コロナ禍で通常の署名が取りにくいと、機を設置して記入してもらったり、電子署名のQRコードが印刷されたチラシ配布など工夫をしながら取り組みました。
- ▶芦屋支部では保健所統廃合反対の要請を芦屋市議会に共同提出し、全会一致で採択される実績を残しました。また保健所統合や社会保障改悪の実態等を訴える駅前宣伝行動を3回行いました。生田支部でも12月より診療所前にて「75歳以上2割化阻止」「核兵器禁止条約」等の署名行動を毎月実施しました。
- ▶医療や生活の相談窓口となることを目的に全日本民医連が作成した「いのちの相談所」ポスターを事業所や組合員宅、自治会掲示板に貼りだし、相談の問い合わせもありました。
- ▶社保委員会主催で「無料低額診療事業」の学習会を実施し18人が参加しました。

2021年度方針

I 居場所と世話人づくり

1. コロナ禍でも“人と人とが気軽につながり集える”居場所や班会などの「場づくり」に取り組みます。
2. 各支部で「居場所マップ」作成に取り組み、「見える化」による活動分析をすすめる中で、空白エリアへの対応や空き家などを活用した新たな居場所づくり計画に結びつけます。
3. コロナ禍ですがあらためて、組合員の声を聞くために感染防止グッズなどを持ち、地域訪問行動に取り組みます。
4. 各支部で組合員や配達協力者の地図おとしに取り組み中で、新たな配達協力者さがしなどの過重負担の軽減につなげる活動に取り組みます。
5. 新しい担い手づくり（お世話がかり）として、組合員50人に1人のお世話がかりをつくります。